

おいしい おこめ

さざ小 二年 大川 りんか

わたしのおうちのごはんは、とてもおいしいです。

なぜおいしいかというところ、それは、じいじが作ったおこめだからです。いきにするので、おいしいが、おいしいように、うきこめてつが、んばって作ったおこめだからです。

春にいきに行ったら、じいじのいえの田んぼは、水がいっぱいで、みどりの小さないねの

なえがうえてありました。おたまじゃくしがたくさんいました。妹とおたまじゃくしをたたくさんつかまえてあそびました。

つぎに夏休みになったら、田んぼのいねは前より大きくなっていました。田んぼのよこにたってみたら、わたしのむねのちよっとしたらへんの大きさにいねがのびてました。よくみると、大きくなっていて、ただではなく、色がみどりから黄土色になっていました。そして、いねにたくさんのおこめがついて、いま

した。とおくから田んぼをみると、いねがきらきらひかつて金色にみえました。

朝おきて田んぼの水を出した。夕、昼に水のいながちをよめにいたり、いろいろとおいしいががんばつていました。わたしは、これまでいねのをたてかたをしらなかつたので、まい日おいしいはたいへんなんだなとわかりました。

ごはんはあまくてとってもおいしいです。これからもひとつぶのこらずたべたいとおもいます。

この前、いきの田んぼのいねかりがおわつた。おいしいいねからききました。おいしいから田んぼのしんをよくともらって見ると、田んぼがすつきりしていました。今年も、たくさんのおこめがとれたらうです。

九月になつたら、いきがらしんまいをおくつてきます。そのしんまいはかたいたら、とてもひかひかど、なにもつけなくとも、とてもおいしいです。とつてもたのしみです。